

1 事業名 文部科学省委託事業「青少年体験活動総合プラン」

学校長期自然体験活動指導者養成研修会（全体指導者）

2 必要性

文部科学省の中央教育審議会は答申（平成 19 年 1 月）において、今日の子どもたちの状況として「直接体験の不足」「生活習慣の乱れ」「希薄な対人関係」を指摘している。多くの体験や規則正しい生活及び友だちとのコミュニケーションが図れる長期における自然体験、集団宿泊体験が文部科学省で見直された。そこで、平成 20 年 3 月告示された新しい小学校学習指導要領では、体験活動の充実が改訂のポイントとして示され、小学校で 1 週間程度の集団宿泊体験を行うことが望ましいことが掲げられた。（平成 23 年度より完全実施）

長期集団宿泊活動の推進については、平成 19 年度教育再生会議で、「小学校で 1 週間の集団宿泊体験や自然体験・農林漁業体験活動を実施」、同年、財政諮問会議でも、「小学校で 1 週間の自然体験を実施する」ことが提言されている。また、「教育振興基本計画」（平成 20 年 7 月）では「関係府庁が連携して、小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間（例えば 1 週間程度）実施できるよう目指すとともに、そのために必要な体験活動プログラムの開発や指導者の育成を支援する」としている。

こうした状況を受け、文部科学省では平成 20 年度から「青少年体験活動総合プラン～小学校長期自然体験活動支援プロジェクト」を実施し、長期にわたる自然体験活動を学校の教育活動として効果的に行うためのモデルプログラムの開発や学校の活動をサポートする指導者の養成に取り組んでいる。そのため小学校が行う 1 週間程度の自然体験活動において、文部科学省の委託事業として当施設が教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するとともに、指導者も養成することとなった。当施設がプログラムの企画立案や事業評価の助言、活動時の全体指導や活動の様子把握と助言などを行う自然体験活動指導者を養成することは、国の施策として、国立青少年教育施設の使命である。

3 趣 旨

新しい学習指導要領の下、文部科学省がすすめる小学校での 1 週間程度の長期自然体験活動を支援するため、長年体験活動に携ってきた青少年教育施設の教育機能を生かして、その指導者の養成事業を行う。

4 後 援

島根県教育委員会

5 期 日

平成 22 年 11 月 19 日（金）～21 日（日） 2 泊 3 日

6 参加者

（1）募集対象・人数：青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心の

ある方で、小学校長期自然体験活動の全体指導者（18歳以上）として活動する意思のある方・20名

(2)参加人数：23名（修了者16名）

(3)参加者分析：青少年教育施設職員2名、公民館等社会教育施設3名、小学校教員2名、養護学校2名、大学教授1名、保育士2名、学生10名、自然体験活動愛好者1名

(4)参加者地域：

地域	島根	広島	鳥取	岡山	山口	兵庫	計
人数（人）	14	2	3	2	1	1	23

7 講師等

近藤 剛 氏（鳥取短期大学准教授・鳥取県キャンプ協会会長）

古瀬 浩史 氏（自然教育研究センター インタープリター）

大田市消防本部救急救助係員

国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職

8 参加費 3,850円（食費7食分・シーツ等洗濯料）

9 事業の内容

(1) 事業の特色

「学校教育における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」「安全管理」「プログラムの企画立案」「自然体験活動の技術」「体験活動の指導方法」等、文部科学省が示す共通カリキュラムに沿って、当施設の職員や講師が実践的な講義・演習を行う。演習は、大山隠岐国立公園内に立地し、自然豊かな三瓶山のフィールドを活用し、当施設の職員や講師が国立三瓶青少年交流の家の周辺で野外炊飯や自然観察等の指導方法を習得する。



大自然の中で体験活動の指導法を学ぶ参加者

(2) プログラムデザインと企画のポイント

- ・ 講義・演習「体験活動の指導方法」では、研修会参加者が子どもたちの立場で自然体験をするだけでなく、小学校での4泊5日の長期自然体験プログラムを企画・立案する指導者の立場で実践的な研修をする形態とした。
- ・ 座学中心ではなく参画型のプログラムになるよう野外で植物等をもちいた講義を聞いたり、参加者間の話し合いや発表をしたりするプログラムになるようにした。
- ・ 参加者に対し、指導者としての経験の程度を事前に調査することによって、本事業で実施する講義や実習・演習が参加者にとって既知の内容と重ならないように努めた。



植物に関する言葉を使った色の種類は何種類？

- ・ 安全管理の講習は、定着しやすいように 5 時間のうち 2 時間はワークショップ形式で、当施設における看板プログラムである「グループワーク登山 (GW登山)」を題材として実践的に行った。
- ・ 昨年の反省を活かし、講義・演習「プログラムの企画立案」では、企画立案グループごとに考えた小学生を対象として立案した 4 泊 5 日のプログラム計画案の発表の場を設け、参加者がそれぞれの企画立案グループの計画案のアイデアを互いに共有できるようにした。



安全管理についての講義



4 泊 5 日のプログラム作成中



グループごとに考えたプログラムを発表

(3) 広報のポイント

- ・ 教職に就いたときに、実践的な活動ができるようにするため教育学部の大学生に参加を呼びかけた。
- ・ 大学生に対しては、当施設の法人ボランティアや企画事業「さんべ夢ステージ」の参加者、島根県出雲市立今市小学校のセカンドスクールのボランティアにチラシを配布し、参加を呼びかけた。また、島根大学ボランティア担当の先生の協力で、当該先生の講義の中で長期宿泊体験の指導者を養成することの必要性を広く大学生に呼びかけていただいた。
- ・ 島根大学教育学部における必修教育課程「1000 時間体験学修」に本事業を認定してもらえるようにして、教育学部学生が参加しやすいようにした。
- ・ 広範な地域からの参加につなげるために島根県内だけでなく中国地方の青少年教育施設や島根県外からの当施設利用者などに呼びかけた。
- ・ 本事業の平成 21 年度未修了者に対し、未履修の講義内容通知とともに、平成 22 年度開催要項を送付し、直接電話によっても参加を呼びかけた。



木を擬人化して自然と触れ合う
大学生の参加者

(4) 日 程

月日 時間	1日目 11月19日(金)	2日目 11月20日(土)	3日目 11月21日(日)
6:30		起床	起床
7:00		朝のつどい・清掃・朝食・移動	朝のつどい・清掃・朝食
9:00	受付	実習 安全管理 救命救急法 (3h)	講義・演習 体験活動の指導方法 2 (3h)
9:30	開講式・ねらいの共有化		
10:00	講義 学校教育における体験活動の意義 (2h)		
12:00	昼食・休憩	移動・昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	講義 教育課程と体験活動の関連性 (2h)	講義・演習 プログラムの企画立案 2 (3h)	実習 自然体験活動の技術 2 (3h)
15:30	講義 安全管理 (2h)		
17:30	夕食・休憩	講義・演習 体験活動の指導方法 1 (2h)	ふりかえり・閉講式解散
19:00	講義・演習 プログラムの企画立案 1 (2h)	実習 自然体験活動の技術 1 野外炊飯 (2h)	
21:00	入浴・休憩・就寝準備	入浴・休憩・就寝準備	
23:00	就寝	就寝	

(5) 内容、講師

講義 学校教育における体験活動の意義

鳥取短期大学 近藤 剛 氏

- ・ 青少年を取り巻く社会的環境や青少年の現状等を踏まえ、青少年の現代的課題と青少年問題について理解する他。

講義 教育課程と体験活動の関連性

鳥取短期大学 近藤 剛 氏

- ・ 学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する他。

講義 安全管理 国立三瓶青少年交流の家 重田 幸輝

- ・体験活動（主にグループワーク登山）における安全管理の基本的な考え方を理解する他。

講義・演習 ・ プログラムの企画立案 国立三瓶青少年交流の家 戸田 美之

- ・自然と人、社会、文化のかかわりや青少年教育施設との連携、地域の人材の活用など、企画立案時に留意することを理解する他。

実習 安全管理（救命救急法） 島根県大田市消防本部救急救助係員

- ・救急救命法の実習（AEDの使用方法を含む）を行う他。

実習 自然体験活動の技術（野外炊飯） 国立三瓶青少年交流の家 長井 理

- ・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。

講義・演習 ・ 体験活動の指導方法 自然教育研究センター 古瀬 浩史 氏

- ・人間関係をつくることや環境保全に興味・関心を持つことなど、目的に応じた指導法を理解する他。

実習 自然体験活動の技術（自然観察他） 自然教育研究センター 古瀬 浩史 氏

- ・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。

(6)運営のポイント

- ・ 事業受付後全員が揃うまでの間、プログラム体験とアイスブレイクを目的に、当施設で人気の創作活動&仲間作りのプログラム「カプラ（フランス製の積み木）」を参加者に体験してもらった。
- ・ 研修会場には、当施設で実施しているプログラムの写真を50枚掲示したり、野外活動に関する本の展示することによって、参加者がプログラムの企画立案に対するイメージがわかりやすいように工夫した。
- ・ 夕方より実施する野外炊飯では参加者にしっかり防寒対策を呼び掛け、準備や事前説明を室内で行うことで、体が冷えないように注意を払った。
- ・ 事前アンケートの結果、自然体験活動の指導者未経験者が23人中19人、経験者も4人参加されていた。そこで、講師に参加者の経験値のばらつきについて事前に伝え、講義や実習・演習を工夫していただき、経験の有無にかかわ



当施設のプログラム紹介



植物を観察する参加者

らず、意欲をもって取り組めるようにした。

(7)安全管理のポイント

- ・ 野外実習については、実際の活動を2日前に試行的に実施するとともに、直前にも活動場所の实地踏査を実施して安全確認を行った。
- ・ 野外に出かける場合は、無線と携帯電話の両方を携行し複数の連絡手段を確保した他、救急靴も携行し事故や怪我に備えた。

(8)アンケートの主な記述

- ・ はじめはスケジュールを見て、大変だなあと思っていたが、講義を聴くだけでなく、ディスカッションをしたり、外に出てみたりしたので、あっという間に感じました。いい体験をたくさんさせていただき、ありがとうございました。
- ・ 2泊3日という日程はなかなか参加しにくいので、部分参加ができてよかった。
- ・ 様々な人々が様々な考えや疑問をもち参加しておられて、(自然体験活動に関する)自分の考えや知識が増えた気がします。
- ・ 今回この事業に参加し、まずは自分自身が自然体験の面白さを目いっぱい感じることができました。プログラムの立案や危険予測等の難しさや責任も改めて感じました。
- ・ 大変充実した内容でした。得るものが多かったです。少々スケジュールがタイトなのが気になりました。

10 成果と今後の課題

<成果>

- ・ 参加者は、中国地方の他施設への広報の結果もあり、定員20名のところ、島根県外からの7名を含めて23名があった。
- ・ 今回事業において全体指導者16名を養成できた。その内訳は大学生43%、教員25%、社会教育施設19%、保育士13%で、平均年齢は29歳と青年の参加者が多く、年齢や職種からして全体指導者として積極的に子どもと関わることが期待できる指導者を養成することができた。
- ・ 地元の島根大学との日頃の連携成果として、大学生の参加者割合が多くなった結果、次世代のリーダーとして有望な大学生の指導者を多く養成することができた。
- ・ 都合により部分履修をした参加者は7名であった。部分参加者の延べ履修時間は102時間で、残り延べ66時間の履修により、全体指導者を付与できる段階まで進めることができた。
- ・ 事後アンケートの評価は「満足」が91%、「おおむね満足」が9%で、2区分評価の満足度は100%であった。感想も「自然体験活動の面白さや指導者としての責任も改めて感じた。」「学校へ持ち帰り、長期宿泊体験の可能性を見出したい。」等好意的な意見をたくさんいただいた。
- ・ 「プログラムの企画立案」の発表の場が少ないという平成21年度の反省を活かし、平成21



年度は発表の場を多く設けた。その結果、参加者それぞれのプログラム企画案について工夫した点が共有され、参加者の感想にも「新たな気付きや発見があった。」等、満足度の向上につながることができた。

< 課題 >

- ・ 研修会の期間を3泊4日から2泊3日に縮めたことで「3日間休みを取るだけで済むので、日程等ちょうどいい、参加しやすくなった。」という意見がでた反面、「(1日に受講する講義数が多くなり)時間的にハードだった。」という意見もでた。このことから平成23年度は救命救急の講義を外部施設の消防署から当施設内へと会場を変更して、施設内の移動時間をなくすことで日程にゆとりをもたせる改善をしていきたい。
- ・ 小学校の教員から「日時を教えてほしい。」「参加したいが学校行事で参加できない。他の期日にする予定はないか。」という問い合わせもあったので、平成23年度は小学校にもチラシを配布するとともに、教員も参加しやすい日時となるよう検討していきたい。

11 普及計画・普及実績

- ・ 取組みの様子を報告書(全体報告書)にまとめ、教育委員会や関係機関(島根県内全ての小学校や、全国の青少年教育施設等)に情報発信することで、当施設や機構が行っている自然体験活動指導者養成研修の成果を広め、理解していただく。
- ・ 事業実施後、事業内容をホームページに成果の公表として掲載した。

(担当 長井 理)



自然体験活動の深さ、楽しさも学んだ参加者



全日程が終了し、笑顔の受講者